

**要 請 書**

# 交換されるべき玄海原発 3 号機原子炉上部ふた 未交換のまま再稼働の判断をしないでください

2017 年 4 月 6 日

佐賀県知事 山口祥義 様

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会  
プルサーマルと佐賀県の 100 年を考える会  
玄海原発反対からつ事務所  
川内原発 30 キロ圏住民ネットワーク

## 【 要請事項 】

全国の加圧水型原発の中で唯一、玄海原発 3 号機は原子炉容器上部ふたを改良型に交換する計画を放棄しています。これは九州電力が再稼働を優先し、安全性を軽視する姿勢を具体的に示す例です。

この問題を放置したまま、山口知事が再稼働についての判断を下すことはあってはなりません。玄海原発の再稼働に同意しないことを求めます。

## 【 要請趣旨 】

加圧水型の原子炉容器上部ふたは制御棒駆動装置と一体構造であり安全上極めて重要な部位です。その上部ふたでの激しい応力腐食発生が現実問題となり、全国すべての加圧水型原発で改良型への取替が「予防保全」と称して進められてきました。現在取り替えられていないのは玄海原発 3 号機と伊方原発 3 号機の 2 基のみとなっています。しかし伊方原発 3 号機の上部ふたは製造済みで、次回の今年 11 月頃の定期検査時に交換予定です。

ところが玄海原発 3 号機は上部ふたの交換の計画もなく、製造にも取りかかっていません。全国の加圧水型で唯一交換しないのが玄海原発 3 号機です。なぜ、こんなことになったのでしょうか。

実は九電は平成 25 年度(2013 年度)に交換する計画を 2010 年 2 月 8 日に経済産業省の原子力安全・保安院に申請(原子炉設置変更許可申請)していました。そして審査が終わり、12 月 3 日には原子力委員会(原子力安全委員会が審査)に諮問。ところが 2011 年 3 月 11 日の福島原発事故発生により審査は中断。原子力安全委員会も認可する立場の原子力安全・保安院も廃止されました。

原子力規制委員会へ問い合わせたところ、交換したいのであれば改めて変更申請が必要とのこと。玄海 3 号機はプルサーマル運転を予定しています。制御棒の効きが悪くなるなどの理由で、プルサーマル用の MOX 燃料(プルトニウム燃料)は燃料全体の 3 分の 1 までと制限されているように原発をより危険にするものですから、その点でも上部ふたを改良型に取替えないまま再稼働に入ることは、福島原発の教訓を学ばず、経済性を優先した明らかな安全軽視と考えます。

(添付資料)

資料 1 米国加圧水型原子力発電所における原子炉圧力容器上蓋の腐食劣化(02-07-04-19)

資料 2 図 2 B&W 社製 PWR における原子炉容器上蓋及び貫通ノズル

資料 3 図 6 原子炉容器上蓋に見つかった腐食劣化の状況(写真)

資料 4 図 7 原子炉容器上蓋に見つかった腐食劣化の状況(スケッチ)

資料 5 米デビスベッセ原発・原子炉容器上蓋貫通ノズルにひび割れ

資料 6 平成 22 年 2 月 九電 玄海原子力発電所使用済燃料貯蔵設備の貯蔵能力変更等について

資料 7 平成 22 年 2 月 九電 玄海原発 計画の概要

資料 8 平成 22 年 12 月 原子力委員会へ保安院

資料 9-1・2 平成 27 年度(2016 年 4 月 16 日更新) 佐賀県の原子力発電 5 章 原子力発電所の運転状況より

資料 10 伊方原子力発電所 原子炉容器上部ふた取替について

以上